

要求実現の力をもつ  
労働組合をめざし  
全国で組織建設と  
拡大をすすめよう!



発行所  
**JMITU**  
(日本金属製造情報通信労働組合)  
〒114-0023 東京都北区滝野川  
3-3-1 ユニオンコーポ3階  
電話 (03) 5961-5601~2  
FAX (03) 5961-5603  
※組織外、無断転載禁止

# 団結力を強化し、さらに発展を

## 会社と共催 もちつき大会 新年へ決意新た



「もちつきははじめて」というフィリピンの実習生も参加 (12月17日 日立建機ティエラ支) 部

大阪・日立建機ティエラ支部では12月17日(土)、支部の年末恒例行事である「もちつき大会」を会社との共催で開催しました。組合員、家族、地域を結ぶ交流の場として、大阪工場閉鎖闘争時から37回続く支部の歴史ある行事と位置付け、毎年この時期にとりくんでいます。

数年前からは会社共催という形で、派遣・契約社員、フィリピンの実習生などティエラで働く従業員にも広くよびかけています。大東工場での開催は今回で4回目。毎年もちつき大会当日になると雪が降ってきたり、突風が吹くほどの寒さになったりと、何かと運に見放されていました。今年は快晴で気温も暖かく過ごしやすいい日となりました。

そのかいあって、会社、OB・地域から70名もの参加がありました。

一カ月前から実行委員会を立ち上げ、今年は昨年

の反省点をていねいに整理し、実行委員の増員や役割分担を明確にするなど改善をはかりながら、参加目標や準備物の確認、案内ビラ作成など、一つひとつのとりくみをていねいにすすめました。

おもちはもちろんのこと、ほかにもフランクフルトやかす汁、お汁こなども用意しました。初参加の方から「短い時間の参加でしたが、今日は来てよかったです」と感想をいただき、たくさん用意したもち米もすべてつくことができました。

今年もOBや地域の方に援助していただきながら2016年の組合活動を締めくくることができました。青年組合員が3分の2を占める現在、定期大会に次ぐ支部の一大イベントとして、支部の組織力、団結力を示し、来年はさらに大きく発展させていきたいと思えます。(大阪・日立建機ティエラ支部・前田久志 通信員)

# 組合員の思い集め、17春闘をたたかおう

## 「まず執行委員がカつけよう」全員が『学習の友』購読

神奈川・東京スチールセンター支部



### 17春闘に向け、東京スチール支部執行委員会と神奈川地本が懇談 (12月25日)

神奈川地本では、職場から17春闘をたたかう態勢をつくっていきこうと、地本の討論集会から年末までに、矢部書記長が三興製鋼支部、日本高周波支部を訪問したのに続き、25日には庄司委員長と西中央執行委員も加わって、東京スチールセンター支部の執行委員会と懇談しました。

東京スチールではJMITU加盟後のとりくみで、時間外労働を取り決める36協定を1年協定から1カ月協定にすることなど通じて、慢性化していた時間外長時間労働を改善させてきました。

しかしここにきて会社から「受注をしっかりとっていくためにも1年協定にもどしてほしい」との提案がきています。支部は、「1年協定にもどれば、長期の連続長時間外労働につながる」として、「まずは早急な人員補充や応援体制で解決すべき」との提案をしています。懇談では、「労使とも大変だが、1カ月協定で努力しあう」「この間のとりくみについて、一人ひとりの組合員に意見を聞く」「あせつ

結論を急ぐ必要はない」などとなりました。

17春闘にむけては、「春闘パンフ」の全員への配布、春闘アンケートとチェックリストによる生活点検など、年内から年明け早々にも全組合員のとりくみにすることを確認しました。

西中執が、東京スチールの36協定見直しのとりくみ(『友』9月号)が、全国の職場組合から驚きをもって読まれていることも紹介し、庄司委員長とともに「春闘を元気にたたかうために、執行委員がもっと学習して力をつけ、自信をもって会社と交渉できるようになろう。そのためにも『学習の友』で勉強しよう」と、生熊委員長の「よびかけ」を使い『友』の購読を訴えました。

夏から購読している正力支部委員長が、「『友』を読みはじめて、そのときどきの問題に労働組合としてどう対応していけばいいのか、ほかの組合の経験も含め勉強になる」との感想も語り、執行委員4人全員で購読していくことになりました。

「JMITU」(メールニュース版)は、毎月25日付での発行です。通常号とともに職場のたたかいや経験を、随時発信していきます。支部執行委員はじめ、職場のみなさんに届けてください。